

今こそ命について考える

私たちの町でも猫を飼っている家庭はたくさんあります。あなたにとって猫とはどのような存在ですか？猫を飼っている皆さんにお話を聞きました。

私たちの町でも

「まさかこんな身近で猫が捨てられていたなんて」見つけたときはとても驚きました。昨年8月、南古道堂内の橋の下で生まれたばかりの子猫が2匹、弱った声で鳴いているのを見つけ、保護しました。

猫は10代の頃に一度飼っていたものの、その猫が死んでしまった時の悲しさが忘れられず、50年以上飼うのを躊躇していました。

また、自分の年齢と猫の寿命のことを考えると、猫をこれから飼うことは現実的ではなく、一度は知り合いにあたり里親になってくれる人を探しました。しかし、飼っているうちに愛着が湧き、飼うことを決意しました。現在では、不妊去勢手術をして2匹とも、屋内

飼育を徹底して飼っています。

また、もし私たちに何かあった場合は、子どもたちに預かってもらえるように頼んでいます。

この2匹の猫たちをどういう気持ちで捨てたのか、私には分かりませんが、責任を持って命を預からなければならぬと思います。



高橋 洋子 さん (飯坂)



ぎんちゃん (メス・1才)

「猫を飼う」ということ

今年の6月に動物愛護センターのホームページに掲載されていた情報を見て、実際に保護猫を引き取りました。

私たちの家では、もともと10年以上飼っていた猫がいましたが、今年に入ってから老衰で亡くなってしまいました。数日経って悲しさと寂しさが、その両方の気持ちを抱えながら過ごす中で、猫という存在が私たち家族にとってかけがえのない存在だったということに改めて実感しました。

その後、家族で話し合い「もう一度猫と暮らしたい」という考えを家族全員で共有した上で、保護猫を引き取ることにしました。

子どもたちには、「命あるものには必ず「死」がある」ということを再確認し、「毎日ご飯やトイレの世話をする」という約束事を決めました。

子どもたちには猫を家に迎え、これから一緒に生きていくにあたって、ただペットとして飼うの



菅野 宏美 さん (賤ノ田)



むぎちゃん (メス・6ヶ月)

ではなく、「1つの命を預かるという責任と覚悟」そしてその大変さを知ってほしいと思っています。

「むぎ」は、ペットであり私たちが家族の一員です。ペットは私たちに癒しを与えてくれますが、私たちは与えられるだけでなく、私たちがペットを大切に最期まで面倒を見て幸せな一生を与えなければならぬと思います。

猫の平均寿命は15年〜20年。

しかしそれは、

屋内飼育された猫の寿命です。

命を預かる責任を

命を守る義務を

私たちは

今こそもう一度

考えなければなりません。

人も猫も

幸せになれる

未来を目指して。

